7月8日　校長配布資料

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進
～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

～　２年１組　授業訪問　～

学習規律「須恵一スタンダード」の実施状況確認のための授業訪問で、今日は２年１組の訪問を行いました。(今日は４年２組、３組を副校長先生が訪問しています)

「心がまえ」「物がまえ」「身がまえ」といった基本的な学習規律については、子ども達の姿から日々の頑張りが伝わってきました。特に「特に授業開始・終了のあいさつ」「友達の話の聴き方」については指導の積み上げが十分に感じられました。

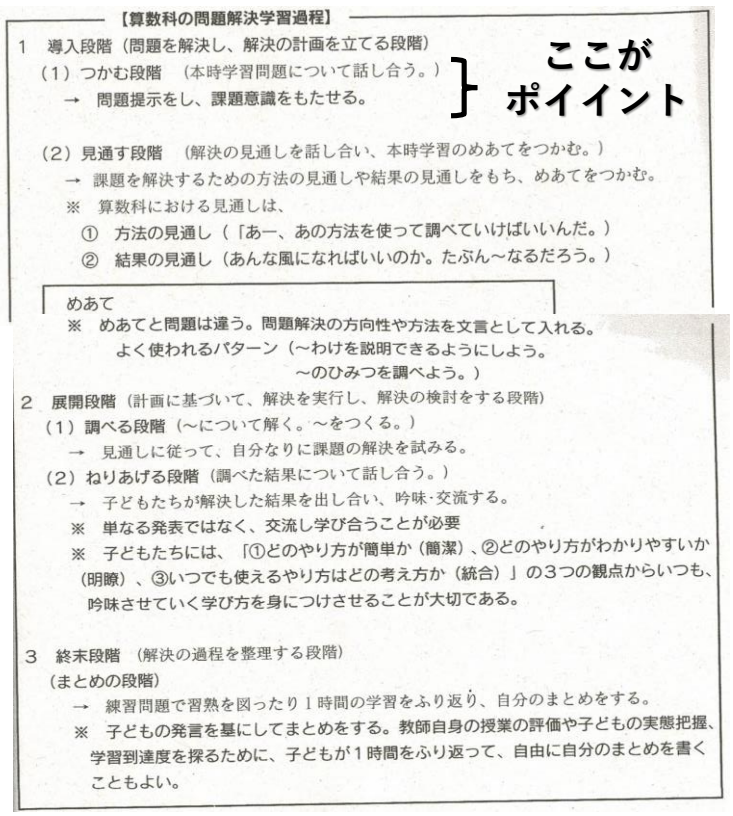
２年１組では算数科で「何百＋(－)何百」の計算の仕方について考える学習が行われていました。「百がいくつ」という考えで計算の仕方が考えられるよう、各グループに実際に100円玉が準備され、分かりやすく授業が進められるよう工夫されていました。グループで追及する姿、グループでみんなに説明する姿から、学級みんなで学習することの楽しさを味わっていることが伝わってきました。

落着きがあり気持ちのよい挨拶

グループでの協働思考

子どもとともに創る授業

～算数科学習　課題をもたせる授業に～


【算数科の問題解決学習過程】

1　導入段階（問題を解決し、解決の計画を立てる段階）
（1）つかむ段階　（本時学習問題について話し合う。）
→　問題提示をし、課題意識をもたせる。

ここがポイント

（2）見通す段階　（解決の見通しを話し合い、本時学習のめあてをつかむ。）
→　課題を解決するための方法の見通しや結果の見通しをもち、めあてをつかむ。
※　算数科における見通しは、
①　方法の見通し（「あー、あの方法を使って調べていけばいいんだ。）
②　結果の見通し（あんな風になればいいのか。たぶん～なるだろう。）

めあて
※　めあてと問題は違う。問題解決の方向性や方法を文言として入れる。
よく使われるパターン（～わけを説明できるようにしよう。
～のひみつを調べよう。）

2　展開段階（計画に基づいて、解決を実行し、解決の検討をする段階）
（1）調べる段階（～について解く。～をつくる。）
→　見通しに従って、自分なりに課題の解決を試みる。
（2）ねりあげる段階（調べた結果について話し合う。）
→　子どもたちが解決した結果を出し合い、吟味・交流する。
※　単なる発表ではなく、交流し学び合うことが必要
※　子どもたちには、「①どのやり方が簡単か（簡潔）、②どのやり方がわかりやすいか（明瞭）、③いつでも使えるやり方はどの考え方か（統合）」の３つの観点からいつも、吟味させていく学び方を身につけさせることが大切である。

3　終末段階（解決の過程を整理する段階）
（まとめの段階）
→　練習問題で習熟を図ったり１時間の学習をふり返り、自分のまとめをする。
※　子どもの発言を基にしてまとめをする。教師自身の授業の評価や子どもの実態把握、学習到達度を探るために、子どもが１時間をふり返って、自由に自分のまとめを書くこともよい。

「今日の問題です」「この問題はどうやったらできそうですか」、算数でよく見かける教師の投げかけです。

算数科の学習では「問題解決的に学習を行う」ことが基本的な流れですが、勘違いしがちなのは、ここでいう「問題」は教師が提示した「問題」ではなく、「問題」を分析した結果、子どもが解決したい、解決の必要があると感じた「課題」のことを指します。

例えば「２００＋６００」という問題が提示されたとします。すると、子ども達は「昨日は何十＋何十だった。」「今日は何百＋何百の計算」「昨日は十がいくつで考えたので今日はきっと百がいくつという考えが使えそう」といったように問題を分析し「課題」を見出すことになります。その「課題」を解決していくことがこの時間の「真の問題」となってきます。

単なる「問題」ではなく「今までと違うところ」「うまく解決できないこと」「もっと知りたいこと」を解決していこうという意識をもって授業を行うことが大切です。

これはどの教科も同じ。教師が与えた問題を解決していくという受け身の授業から、問題から自分達で考えたいこと、解決したいことを見出す授業を目指していきましょう。